

令和6年度 磐田市立福田小学校 学校経営構想

I はまぼう学府（学校）教育目標 「互いを認め 未来をともに創る子」の育成 【互いを認め】

- (1) 「自分はどんな人間なのか（強みや弱み）」についてよく理解し認める。
- (2) 周りの人たちのことを理解し、認める。

【未来をともに創る】

- (1) 自分が生活をしている学級や学校の課題に気付き、解決していく力を育てていく。
- (2) 自治的な風土の中で、子どもたちの主体性やレジリエンスを育てていく。

II 学校運営

1 学校経営の基本方針

150年の歴史と伝統によって培われた校風と精神を継承する。はまぼう学府としての結び付きをさらなる発展の契機とするとともに、新たな時代の要請・「静岡県の教育」及び「磐田市教育大綱」を土台とした教育計画の方針を受け、はまぼう学府としての「めざす子どもの姿」の具現のため、すべての職員の創造性・自発性・英知を結集し、本校に在籍する子どもたちにこれからの未来をたくましく生きる力を身に付けさせ、保護者・地域から信頼される学校づくりをめざす。

2 学校経営目標

本校の子どもたちは、大変素直で活発な子が多い。学府（学校）教育目標を常に意識するとともに、「原点は子どものために」を合い言葉に、学校生活の様々な場面で、子どもたちが活躍できる場や創造的な活動の場を保障し、自ら考え進んでかかわることで、成功や達成した喜び、失敗の悔しさ等を実感させていきたい。そうした感動体験は、子どもたちの心を耕し、新たな夢や希望を持つことにつながると考えている。そのため、経営目標を以下のとおりとする。

かかわりいっぱい やさしさいっぱいの学校
～「安心・安全・愛情」 原点は子どものために～

学府（学校）教育目標を具現化していくためには、教職員がチームとして、仕事に対するベクトルが同じ方向を向いていることが大切である。また、子どもや保護者、地域の方の信頼を受け、協働していくことも必要である。そこで、以下の四点を学校経営の重点目標とし、本校が目指す学校像に迫ることとする。

【子どもが行きたくなる学校】 《子どもの視点から》

子どもたちが学びを通して「心の居場所」を実感できるようにし、今日よりも明日、明日よりも明後日へとよりよく生きようとする活力が生まれる場としての学校でありたい。そして、子どもにとって「明日も行きたい」と思えるような学校でありたい。

【保護者が行かせたくなる学校】 《家庭や地域社会の視点から》

学校を家庭や地域社会に開くことの意義は、育てたい子ども像の具現に向かって、子どもの学びを育み、よりよく生きる力を育てることにあると考える。家庭・地域社会との双方向のかかわりを大切にして、「地域と共に育つ学校」でありたい。相互の信頼を通して、保護者がこの学校に子どもを行かせたいと思うような学校でありたい。

【職員が勤めたくなる学校】 《職員の視点から》

職員は学校経営目標に照らして自己目標を明確にして、自分の持ち味や専門性を生かし、また自主性や創造性を発揮しながら、意欲と責任をもって取り組むことを通して、職員にとってやりがいがあり、この学校に勤めたいと思えるような学校でありたい。

【潤いとふれあいのある学校】 《学校環境の視点から》

美しく快適で安全な物的環境とともに人的環境を一層整え、子どもの学ぶ意欲を喚起し、美しいものに素直に気付いたり感動したりする豊かな心を育てるための環境がある学校でありたい。